

■芸術・文化関連団体等へのヒアリング実施結果～まとめと提言の可能性～

		ヒアリング実施結果	
		芸術・文化関連団体等	市の芸術・文化行政
1) 第3期区民会議提言内容のフォローアップ	①文化担当官の設置	<ul style="list-style-type: none"> ●以前の「社会教育主事機能」の復活が近道 ●文化芸術専門コンシェルジュ機能が必要 ●支える人たちの組織化、ネーミング、巻き込みが必要 ●文化担当官を行政が担う、ボランティアが担うというそれぞれの意見があった 	<ul style="list-style-type: none"> ●区の特徴のある政策課題として行政に文化担当官のセクションを検討すべき(文化財団)⇨担当部署の再度の設置は難しい(地域振興課) ●市の文化大使のように、区の文化大使を置く
	②麻生文化会議の設置	<ul style="list-style-type: none"> ●分野別団体間のつながりからはじめる ●アートセンターが中核機能としての役割を果たす ●既存組織の活用で実現できる ●団体同士の協力関係 	<ul style="list-style-type: none"> ●NPO法人しんゆり芸術のまちづくり、しんゆり芸術のまちフォーラム等が役割を担えないか ●アルテリッカ、音楽祭、映画祭等の各サポーターの交流の場 ●ウェブを活用したネットワーク会議として、情報収集・発信する
	③情報発信・活性化(景観条例見直し)	<ul style="list-style-type: none"> ●大胆なまちづくりの発想が必要 ●駅～駅周辺～アートセンターなど芸術文化の雰囲気を感じられる工夫が必要 ●規制に基づきイベントを選定し綺麗なポスター、のぼりで広報 ●駅北側の賑わい・情報発信 ●小田急沿線駅構内の広報 	<ul style="list-style-type: none"> ●規制は守りながら、にぎわいを作ることも必要 ●景観条例による街並みも大切にする
2) 若者や子供など多くの市民が楽しめる芸術・文化のまちづくり		<ul style="list-style-type: none"> ●音楽家、芸術家の住みやすいまちづくり ●地域で心癒される機会(企画)を増やす ●若者が自主的に参加する仕掛けが必要 ●若者が「いつか戻ってきたいと思えるまち」づくりが必要 ●駅周辺で「いつも何か」行われている状態を目指す ●日本映画大学・昭和音大のコラボなど、ジャンルを超えた企画 ●麻生音楽祭に軽音楽を加えれば中高生の参加が増える可能性 ●皆が聴き合う工夫が必要 ●子供たちの組み込みは重要 ●夏休みにアルテリッカ子供版を開催 ●澁谷、新宿などの良いところを取り入れる 	<ul style="list-style-type: none"> ●区内の多くの大学・高校から学生に演劇製作など芸術文化に参加してもらい、そのアイデアを活かす ●若い人にとって麻生区は環境が良いイメージがあり、さらに芸術・文化が盛んなイメージを作りだす ●麻生文化会議など団体間のネットワークに大学にも参加してもらおう
	3) 活動上の問題点、川崎市や麻生区への要望(芸術・文化関連団体)とそれに対する意見(行政)	<ul style="list-style-type: none"> ●国、市の施策の方向性を踏まえつつ、区のオリジナリティの創出 ●「芸術のまち麻生」を目指す目標に期待 ●音楽大学と映画大学双方が存在する素晴らしさを活かす ●国際化、グローバル化がキーワード ●行政の予算付け ●活動団体の練習場所の確保 ●音楽ホールの整備 ●麻生市民館の老朽化による建て替え・設備の充実 ●麻生市民館の継続利用団体への便宜 ●区のためのアートセンターの役割 など 	<ul style="list-style-type: none"> ●練習場所の確保について、施設建設・改修などの設備投資は簡単にはいかない⇒市としては市民館などの施設は改修しながら長期的に使用していく方針⇒施設改修の際に会議室の防音工事などを実施していく ●民間施設などの練習場所の情報の集約・発信が必要 ●アートセンターのシネマニュースや市政だより区版による情報発信を
4) 「しんゆり・芸術のまち」の今後の展開、施策の方向性について		<ul style="list-style-type: none"> ●「芸術のまち」としてのまとまりにはまだかける ⇨新百合ヶ丘は素晴らしい文化環境 ●麻生区は「行くところより帰るところ」というイメージ ●芸術文化はテーマが広すぎる。テーマを絞ったブランディングが有効か ●文化に理解の深い人が多い 	<ul style="list-style-type: none"> ●しんゆりだけでなく区全体で、年間を通して区民が参加でき、多くの文化資源を活用して文化の薫りあふれるまちづくり ●芸術文化を愛する区民を醸成・育成していくことが大切 ●音楽祭、文化祭など既存の事業・活動の継続実施 ●アルテリッカを他の施設と連携するなどさらに活用していく

ヒアリング課題の掘り下げ(案)	審議の方向性(10月11日現在)	審議の方向性(11月16日現在)
<ul style="list-style-type: none"> ■地域における文化担当官(コーディネーター)の設置(★取り組み) ■関係団体によるコンソーシアムの形成(★取り組み) 行政・文化担当官の設置は現状難しい ・文化会議は「NPOしんゆり芸術のまちづくり」「しんゆり芸術のまちフォーラム」のあり方の議論を見守る ↓ [掘り下げ] 会議設置の目的や内容の具体化、参加団体の意向確認、核となる担い手の検討、地域課題解決型提案事業の活用、行政ができる支援など 	<ul style="list-style-type: none"> ■関連団体・行政ともに、文化担当官(コーディネーター)および文化会議設置については原則賛同している ■どこが(だれが)担うべきか、どのような組織とするか、担うべき業務などについての意見が分かれている ↓ ①論点を整理し、文化担当官(コーディネーター)の具体的な姿、担うべき役割・業務などについて示す ②文化会議設置の目的・組織・活動の方向性や内容について提言する 	<ul style="list-style-type: none"> ◆左欄の①②を検討していくが、新市長のマニフェストに、「市役所に文化専門官を配置し、長期的な文化施策を市民、企業と一緒に進める体制を整えます。お祭りや地域イベントには市・区が率先して協力！」とあるため、今後それをふまえつつ、提言をまとめていく必要がある。
<ul style="list-style-type: none"> ■情報発信強化・にぎわいの創出(★取り組み) ・駅コンコースの柱にポスターやアートセンター通りにのぼり設置など ↓ [掘り下げ] 現地を確認しポスター等を設置可能な必要な場所、アートセンターとの意見交換など具体的方法のさらなる検討 	<ul style="list-style-type: none"> ■(提言を受けて)景観条例の一部見直し、駅コンコースの柱にポスター設置への働きかけなどの取組みがスタートしている ↓ ①映画祭ポスターの設置(南口)やアートセンター通りののぼり設置などについて、その申請方法等について調査・整理し、関連団体に分かり易く示す(「申請チャート」のようなものを作成?) 	<ul style="list-style-type: none"> ◆事務局からの資料をもとに、現時点での情報を共有した。新百合ヶ丘周辺地区の景観形成基準については平成25年7月にパブリックコメントが実施され、26年6月頃に見直しが行われる予定。現行で禁止となっている立看板、広告旗(のぼり)、広告幕は期間を区切って設置可能となる予定。◆市・区・教育委員会の後援取得の意義、方法などについて。わかりやすい申請チャートのようなものを作成するかどうか検討中
<ul style="list-style-type: none"> ■若者が自主的に参加できる仕掛け(★取り組み) ・渋谷などの良いところを取り入れる ■大学間のコラボによるイベント等の検討(★取り組み) ・日本映画大学、昭和音大等 ↓ [掘り下げ] 若者との意見交換会を行い、課題や必要な措置など具体的方法の検討 ■アルテリッカ子ども版の実施(★取り組み) ⇒アルテリッカ事務局との意見交換 ■音楽家、芸術家の住みやすいまちづくり(★取り組み) ⇒インセンティブ等の導入等を横浜市の事例を参考に具体化 	<ul style="list-style-type: none"> ■関連団体、行政からさまざまなアイデアがあったが、「若者」について具体的に規定しなかったこともあり、まとめづらい状況 ■第4期においては、「子育てしやすい環境づくり」で検討している20代～40代の「子育て世代」にフォーカスする ■子供といっしょに楽しめる催しがいろいろ開催されているにもかかわらず周知されていない状況 ↓ ①2013年4月に実施予定の(仮)「子育てフェスタ」において、子育て世代が楽しめる芸術文化活動を一覧表示(「子ども」を切り口とした催事案内?) ②「子育てフェスタ」に、大学生(麻生区6大学協定校に呼びかけ?)などの若者が参加する場を設置する ③(可能であれば、上記①②の参加者から「若者が住みたくなるまちづくり」について意見聴取 	<ul style="list-style-type: none"> ◆20代～40代の「子育て世代」にフォーカスする ①2014年4月に実施予定の「あさお子育てフェスタ」において、子育て世代が楽しめる芸術文化活動を一覧表示(「子ども」を切り口とした催事案内) →事務局を通じて区役所の各部署で主催している催しの情報を集めて一覧にし、次に芸術文化活動団体から情報を募り、リストを完成させる予定 ②「子育てフェスタ」に、大学生(麻生区6大学協定校?)などの若者が参加する場を設置する →「子育てフェスタ」ワーキンググループに依頼する ③上記①②の参加者から「若者が住みたくなるまちづくり」について意見聴取 →「子育てフェスタ」で実施予定のアンケートに関連の質問を入れる(質問項目については検討) →そこで得られた意見を提言に組み込めるようにしたい。
<ul style="list-style-type: none"> ■麻生区のオリジナリティの創出と目標の明確化(★構想・ビジョン、★施策) ■音楽大学と映画大学双方が存在する素晴らしさの活用(★取り組み) ■国際化・グローバル化を視点とした芸術文化施策(★構想・ビジョン、★施策) ■活動団体の練習場所の確保(★取り組み) ■音楽ホール等施設の整備・充実 ■麻生市民館の継続利用団体への便宜 ↓ [掘り下げ] 市民館の建て替えやホールの設置などハード面の整備は、行政の反応としては、経費や施策の方向性との乖離からよい回答ではない。既存の施設を活用しての解決策として、空き店舗の活用などを検討すると、実際の空き店舗状況などを調査する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ■活動団体の練習場所の確保やホール整備の問題が挙げられているが、市民館の建て替えやホールの設置などハード面の整備は、むずかしい状況であることが判明 ■団体の活動方針・内容によって必要な設備(防音など)、広さも様々である。 ★したがって、住宅展示場や空き店舗など既存の施設の状況を把握しそれを活用しての解決策を検討の必要がある。 ■このような調査・調整機能こそが、第3期提言の「文化担当官(コーディネーター)」業務となるのではないかと。 ↓ ①最上欄に示した、「文化担当官(コーディネーター)」の具体的な姿、担うべき役割・業務の内容に反映させる ②その他、関連団体・行政から出た意見等についても、必要に応じて上記に反映させる 	<ul style="list-style-type: none"> ◆左の項目にあるキーワード(既存の設備を活用し、団体の活動方針・内容に応じた練習場所の確保や情報提供など)をベースとしつつ、新市長のマニフェスト(「市役所に文化専門官を配置し、長期的な文化施策を市民、企業と一緒に進める体制を整えます。お祭りや地域イベントには市・区が率先して協力！」)に呼応した提言を目指して話し合いを進める。
<ul style="list-style-type: none"> ■「芸術のまち」としてのブランドづくり(★構想・ビジョン、★施策) ・「芸術文化」のなかのテーマの絞り込み ↓ [掘り下げ] 区の独自性、特徴、『〇〇のまち』をはっきりと打ち出すために麻生区と言えば(「演劇」? 「音楽」? 「映画」?)などの絞り込み 		<ul style="list-style-type: none"> ◆柿生や岡上など、伝統的な文化を大切に、それと共生する「芸術のまち」の構想・ブランドづくりについて踏み込んだ形で記述する可能性も含めて検討。